

図 5.4.9 平成 20 年度、24 年度、28 年度の防鹿柵外におけるコケ類の被度クラス分布

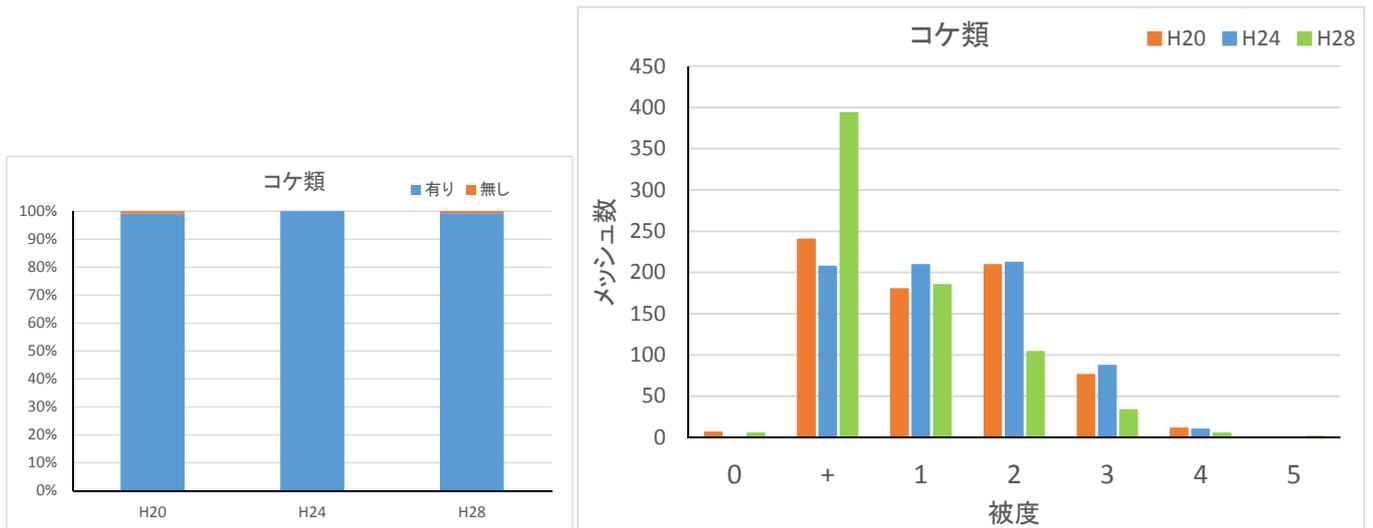


図 5. 4. 10 コケ類が確認されたメッシュの割合の変化と被度クラス別メッシュ数の変化（防鹿柵外）

② ササ類の稈高の変化

平成 20 年度、24 年度、28 年度の防鹿柵外におけるササ類の平均稈高を図 5. 4. 11 に、稈高の階級分布の変化を図 5. 4. 12 に示した。

平成 20 年度からの防鹿柵外のササ類の稈高の主な変化を以下にまとめた。

- ミヤコザサ、スズタケともに稈高は上昇している。（図 5. 4. 11）。
- 平成 28 年度には稈高が 10cm 以下のメッシュはほとんど見られなくなった（図 5. 4. 12）。
- 平成 24 年度まではほとんど見られなかった稈高が 100cm を超えるスズタケの確認メッシュが平成 28 年度には増えてきている（図 5. 4. 12）。

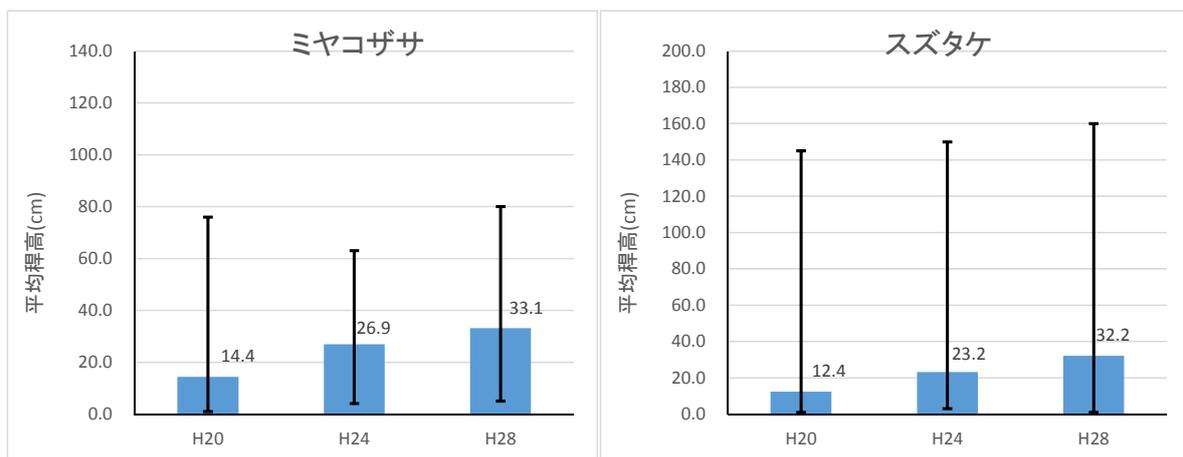


図 5. 4. 11 平成 20 年度、24 年度、28 年度の防鹿柵外におけるササ類の平均稈高

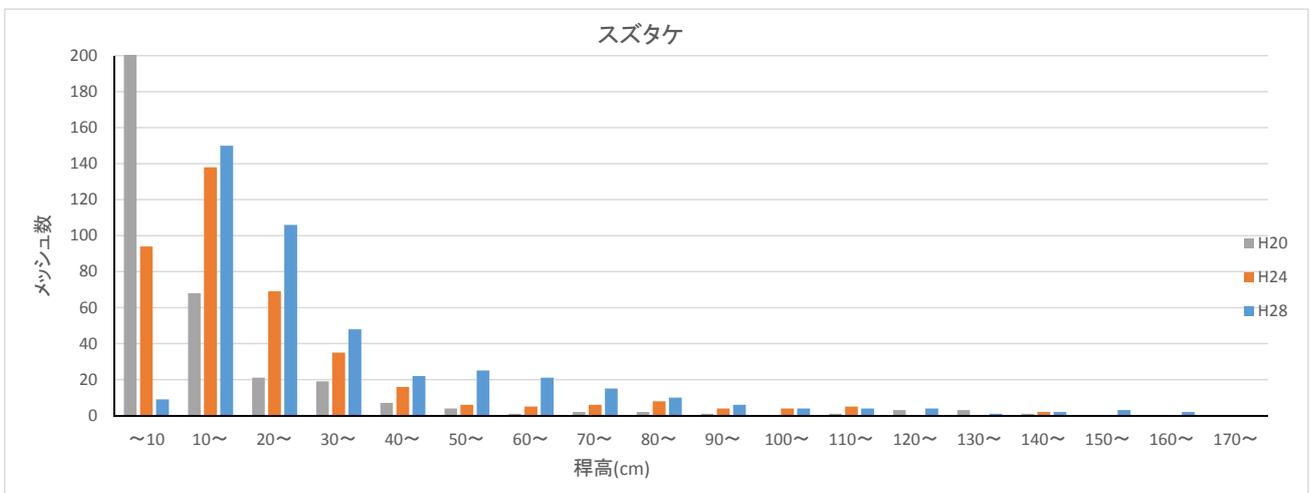
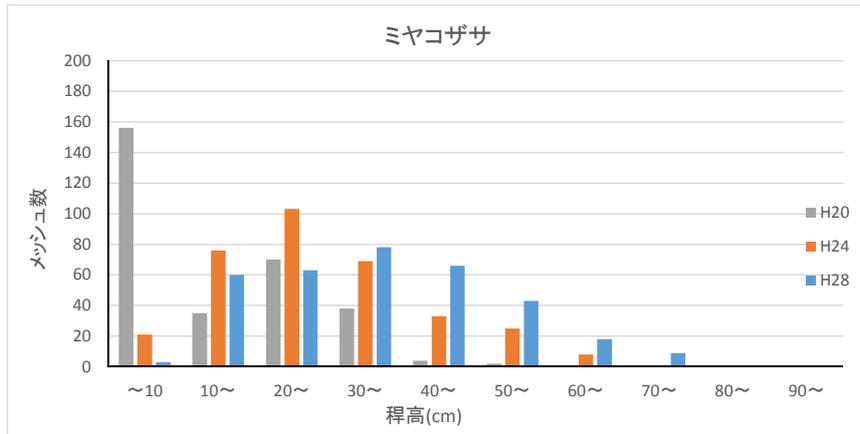


図 5.4.12 平成 20 年度、24 年度、28 年度の防鹿柵外におけるササ類の稈高の階級分布の変化

2) 防鹿柵内における下層植生の変化

① 被度の変化

a. ミヤコザサ

平成 20 年度、24 年度、28 年度の防鹿柵内におけるミヤコザサの被度クラス分布を図 5.4.13 に示した。

平成 20 年度からの防鹿柵内のミヤコザサの被度の主な変化を以下にまとめた。

- 東大台では防鹿柵設置済みの箇所は被度が高いメッシュがほとんどであるが、シオカラ谷の防鹿柵内ではミヤコザサの被度は低いままである。
- 西大台では七ツ池の防鹿柵内でミヤコザサの被度が上昇しているが、経ヶ峰下の防鹿柵（植生タイプⅦ）やコウヤ谷、七ツ池下の多様性保護柵内ではミヤコザサの生育はほとんど確認されていない。